

水馬



みずすまし
水馬

おのが時計を回しおり

かねた^たたき
鉦叩 つづれ衣で経を上げ[※]

ありじ^じく
蟻地獄化粧なおしや砂けむり

いととんぼ
糸蜻蛉 儀式つめたき水の青

おしら様 透^すけた身をもて糸を吐き

こくしよかな
たまむしの青い火を焚く酷暑哉

※鉦叩のオスは後翔退化、チンチンチンと鳴く秋の虫。
※おしら様は東北地方の民間で信仰する養蚕の神。

てんきゆう
天穹に倒立ありや黄金蜘蛛 こがねぐも

モルフオ蝶ステンドグラスを網に追い

るり沼の水に染まりし蜻蛉 やんまかな

芋虫 いもむしをみこしに担ぎ蟻 あまの行

蟻 あまの行333の鎖 くわ曳 ひき

※蜘蛛が巣網で逆立ちしている。苦界地獄がよく眺めるかも。

油蟬あぶらせみ たぎりし夏を絞りよる

幽谷ゆうこくを撫なでて翔びゆく黒き蝶

アアアアア
啞啞啞 昏れどきの鳥からすかな

死の国の宴うたげかなでる蟬法師

不条理の雫しずくにぬれて秋の虫

※啞啞啞 なんとも？鳥などの鳴き声。

白き骨焚いて香上ぐ蚊遣かな
かやり ※

杭一つ秋の水面に輪を重ね
みなも

ひっそりと日陰の蕨つむじ曲げ
わらび

身を振る蠅とりリボンに秋の風
よじ ※

あかい墨ながして陥ちる夕陽かな
すみ

※蠅も蚊も少なくなつて風情なき文明の利器がよく売れる。

いかずちのみどりの劔闇つるみを裂き

ひと知れず鼓叩つつみたたくや月見草

しわぶきの声ひとつだに青畳あおだたみ

あとになりさきになりして影遍路かげへんろ

沈下橋かすげを雪ぎて遍路ゆき

※夕闇にひらく月見草の妖しき音色ひとつ。

野仏らっかんに落款ありや白きふん

叩かれて頬かの膨ふくるる紙風船

赤蛙あかがえるびつきすまぬと皮を剥むぎ

唾つばを呑む舌の記憶がものを喰くい

花かつを一膳おとめしに跳とりだし

※地方によっては蛙をヒツキとよび、赤蛙は食材となった。

靖国の

人柱を二度しやぶり

玉串を人身御供ひとみごくらうに捧ぐるや

靖国のオンブオバケが拝みよる

物の怪つに憑やこかれし奴おどりだし

かの戦いく 兵士鼠ねずみのしつぽ咬※み

国粹なびのふんどし一つ靡なびきおり

※死者の六〇七割が餓死という戦争の不条理。

秘密法やぶれ襖かすまの裏に張り

※
密約書 鳩首判官二度やぶりきゆうしゆ

雛壇の屁こき虫にも陣羽織じんばおり

かぎじゆうじ
鉤十字 爪の先をばマニキュアし

じやしゆう
蛇の穴亡者邪執の身をからめ

※沖繩返還時に交わされた密書。司法も太鼓持になり下がる。

※鉤十字卍。ナチスの党旗。ハーゲンクロイツ。

もろしゅう
妄執の染色体が牙を剥き ※

グローバル悪魔球儀を駈^かけめぐり

国ぐにに使い勝手の神が棲^すみ

琴線の壊れし器搔^{うつわ}き鳴らし

欲望の熊手かついで国滅^くび^{ほろ}

※戦犯祖父の遺伝子まるごと継いだトラウマと執念。

※目ん玉飛び出る金子で熊手を買った党首某。

じんめんそう
人面相ヤドクガエルが弓を張り

いがた
血税を武器の鑄型に流しこみ

やぶか
血税の袋ひきずる藪蚊かな

おんぼ
亡国の隠坊せつせと穴を掘り

でくのぼう
幼児性嘘言癖あり木偶坊

※どなたかは知らないけれど似たカエルがいたもんだ。
※隠坊は墓守、墓穴掘り。趣味なる靖国参拝。

たが
箍はずれ無間地獄が口を開け ※

原子カムラの神器を伏し拝み
じんご

放射能 稀釈するよな海となり
きしやく

NHKとんだ傀儡が糸を操り
くぐつ

芋虫を御輿にかつぎ 国奴
みこし くにやうこ

※地獄の中の地獄。阿鼻叫喚の地獄なり。

※傀儡はあやつり人形。その使い手。かいらい。

ヒトラーも旗にとり込む五輪ごりんかな

危の文字の斬とつ先尖うきよかなげる現世哉

天皇すめらみの賞味期限を裏に貼はり

一いち％の民主主義かところぶし挙げ

参拝の骨あずけおり自衛官

※歴史上政治に利用されてきたオリンピックに（用心。
※危慎種と言わぬまでも、賞味期限かな（？）。

木魚〔下の句〕

原発と武器大手の尻馬にのつて、酔狂な口
三味線に興じる浮かれ者の小唄には毒がある。
『武器は要らんかねえ』声高にして「積極的
平和主義」(?)を売りこむ死の商人。風にも
聴けぬ珍語妙句をくりかえし口遊む。片腹痛
し、化けの皮剥がるること以て知るべし。
世の不条理あるも、無下に脱皮そこねた二齡
幼虫の世迷言、血筋あらそえず。偏狭なる国
家主義を眼裏に焚きたて、人命の軽きをもつ
てする好戦亡国の独裁者。眉間に赤子(せき
し)の皺ある幼児大人。同好の輩を配下に奸
計の膳に余念がない。隠しごとを愛でるこの
御仁、しらとした嘘だけが身上とみた。言行
不浄にして奇妙奇天烈な生き物がまんどころ
(政所)に蠢いている。ことを欠き、いやし
き同盟の、根っからの好戦大国、血に染みた
アメリカの旗の下！。南無阿弥佉仏。

シヤイロックおのれの皮を剥いで見せ

二〇一四年 秋

七八六—〇三二六

高知県高岡郡四万十町

大正中津川二一〇—一

〇八八〇—二七一五六六八

佐々木泰 (愚草)